

創

—第64回—

災害は、忘れる間もなくやってくる

熱海市で発生した土石流被害でお亡くなりになった方々に、心から哀悼の誠を捧げます。

熱海市とは、昭和41年から50年以上にわたり姉妹都市として交流を深めてきました。

特に私が市長就任後の6年3か月の間には熱海に3度伺い、商工会議所や民間の皆さん、議会も含めて正しく「親戚付き合い」をしてきた間柄です。他人事ではありません。

発災後、齊藤栄熱海市市長と直接お話をさせていただいた時、「近隣市では地形上土石流などの災害が度々起こってきたが、熱海では起こらないと住民皆が思っていた」と仰っていました。

今回の災害を大きくした要因の一つに「盛り土」が挙げられていました。工事などで



別府市長
長野 恭紘

大量に発生し運び込まれた残土が、結果として被害を拡大させてしまったのでしょうか。

また隣接地にメガソーラーが設置された事も要因の一つではとされています。盛り土やメガソーラー自体が悪いわけではなく、近年の予想を上回る雨量や自然災害に今までの法や規制がついていない、という感が否めません。

数十年に一度と言われる災害が毎年全国各地で起こっています。

明日は我が身。災害は忘れる間もなくやってくる、とはよく言い当てた言葉です。

これを機に、開発や自然との共生への再点検を別府市でも図りたいと思います。

熱海市の早期の復旧を心からお祈りしています。



フォトべっぴ



防 火・防災の意識を—6月30日、ひめやま幼稚園で「別府市幼年消防クラブ研修」が行われました。園児たちは地震体験車で震度4を体験し、机の下に隠れながら、地震の怖さと揺れから身を守る方法について学びました。



協 働のまちづくり—公益的な活動を行うNPO法人や学生団体などを支援する「別府市市民活動支援補助金」の最終審査会が行われました。発表者たちは地域の課題解決に向け、それぞれの企画を熱く語っていました。



願 い事が叶いますように—6月中旬から7月7日にかけて、市営温泉15か所で七夕の飾り付けが行われました。七夕当日、「コロナが早く終息してほしい」「健康で過ごしたい」などのたくさんの願いが込められた短冊が見事に笹を彩っていました。



毎 日開いています—6月23日、「新型コロナウイルス検査センター」を旧山の手中学校に開設しました。市民や観光客などで無症状の人を対象に8月31日(火)まで(予定)PCR検査と抗原検査を選択して受けられます(観光客は抗原検査のみ)。